



小学生・中学生の皆さんへ

2023年[令和5年]

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報 Jr

7.14
No.155

あらかわ区報 Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>

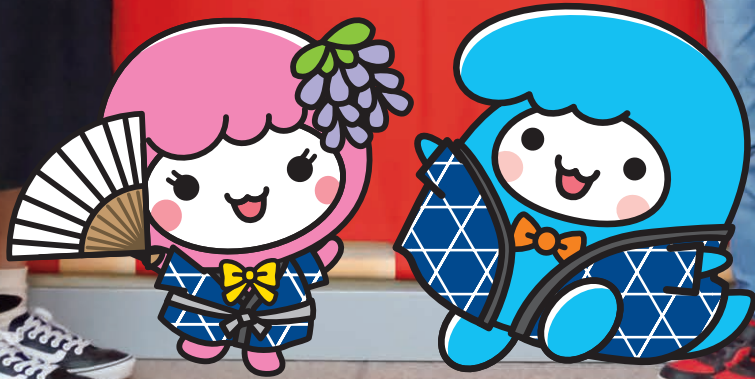
ARAKAWA KUHO JUNIOR

ジュニア



知しらなかつたあらかわが

荒川ふるさと文化館



荒川ふるさと文化館では、あらかわの原始時代から現代までの歴史、生活の移り変わりを展示しています。また、今年度から新しい展示物も登場して、さらに楽しめるようになりました。今回は、第四峡田小学校6年生のジュニア記者が荒川ふるさと文化館を訪問。学芸員の皆さんに、知らなかったあらかわの歴史を教えてくださいました。



たくさんあるよ!

問い合わせ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

次は9月に発行する予定です

あらかわ 荒川ふるさと文化館には

あらかわの歴史がたくさん詰まっています

知って 楽しい!



荒川ふるさと文化館には、あらかわの原始時代から現代までの貴重な文化財がたくさんあります。今回は、荒川ふるさと文化館の学芸員さんたちに、新しくなったコーナーについて詳しく聞いてみましょう!

荒川ふるさと文化館 ご案内

ほかにもいろいろな展示があります

あらかわの暮らしと空間 (復元家屋と路地)

昭和40年ごろのあらかわでよく見られた生活空間を復元したゾーンです。路地の役割や、家族そろって夕食をとる居間の様子を再現しています



あらかわ伝統工芸ギャラリー

荒川区の伝統工芸技術の魅力を発信する常設のギャラリー。区内の職人さんが作った伝統工芸品を見ることが出来ます。10月11日(水)まで、「金工・漆工」を展示中



〒140-6631 東京都荒川区南千住6-63-1 ☎(3807)9234 詳しくはホームページをご覧ください。 荒川ふるさと文化館



あらかわの歴史をもっと知ろう

菅希実さん

荒川ふるさと文化館の見どころを学芸員さんが解説!

荒川区に遺跡があるの?!

原始ゾーン [町屋四丁目実揚遺跡]

荒川区に人々が住み始めたのは、今から2~3万年前といわれています。現在、区内には遺跡が7か所あり、そのうちのひとつが町屋四丁目実揚遺跡です。弥生時代終末期から古墳時代前期までを中心とする遺跡で、隅田川右岸の標高2~3mほどのところにあります。



実際に町屋四丁目実揚遺跡の発掘と調査に立ち会った学芸員の八代和香子さん。発掘のときの様子も交えながら解説してくれました



鎌田麻央さん



「発掘された土器の形や特徴から、昔の人々がどんな風を作っていたのか想像するのも楽しいですよ」と八代さん

ここに注目!



令和3年度に町屋四丁目実揚遺跡から発掘された土器3点が、新たに展示されました。ほぼ完形を保って発見された壺形の土器はとても貴重です。わざと開けられた穴、赤い彩色が見られ、祈りやまつりに用いられたと考えられます

古代・中世ゾーン

隅田川・入間川を含む広い意味での荒川水系を「荒川」と呼びます。荒川は、流通と交通の大動脈として重要な役割を果たしました。現在の南千住三丁目付近は、各地からやって来た旅人たちが物が行き交う、とてにぎやかな場所でした。川は、物資や人を運ぶだけでなく、文化や宗教も伝える役割を果たしました。

ここに注目!

西日暮里の諏方神社の縁起を記した「諏訪大明神略記」のパネルを新たに展示しました。諏方神社が鎌倉時代に豊島氏によって創建され、その後、太田道灌が日暮里に築いた砦の鎮守として大切にされたことなどが記されています



▲荒川区の交通が発達した理由とその歴史について、真剣な表情で聞くジュニア記者たち



▲「隅田川には古代から渡し船が置かれていました。鎌倉時代には船を利用する人が増え、橋もかけられました。生涯をかけて旅をした一遍上人もここを渡りました」と、丁寧に歴史を教えてくださいました学芸員の野尻かおるさん

豊田あかりさん

近世ゾーン

文禄3年(1594)、徳川家康が隅田川に千住大橋をかけたことにより、多くの旅人が往来するようになりました。その後、江戸に幕府が置かれ、江戸はさまざまな人が生活する巨大都市に発展。江戸の入口にあたる千住には、物流の拠点として河岸が設けられ、千住大橋の南北には江戸四宿の一つである千住宿が置かれました。

ここに注目!



千住大橋について、絵画資料や貴重な古写真を使って分かりやすく解説しています。また、隅田川を行き交った近世の船の絵や材木問屋の分布図を加え、千住大橋周辺に発達した河岸の様子を解説しています



昔の人々の仕事や生活がよく分かるね

▲「松尾芭蕉が弟子の曾良たちと奥の細道の旅に出発するとき、ほかの弟子たちは千住大橋まで見送りに来ていました」と学芸員の亀川泰照さん



▲当時の千住大橋には、水に強く腐りにくい高野槨という種類の木が使われたとされています。それを調達したのは伊達政宗だという伝説があります

伊勢崎菜桜さん

学芸員さんが作った「荒川ふるさと文化館クイズ」にチャレンジ!

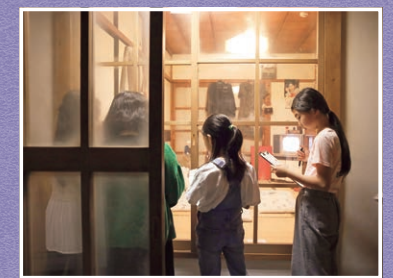
学芸員さんの話をよく聞いてね



▲学芸員さんに解説してもらったゾーンからも、それぞれクイズが出題されました



豊田あかりさん



▲昭和の家屋と路地を復元した空間も取材しました。初めて見る家具や電化製品の使い方を想像しながら、クイズの答えを考えます

答え合わせ



▲答えを出すのに、苦戦するジュニア記者たち! 迷いながらも、全員正解できました。すごい!



みんなも考えてみよう!

あらかわ区報 Jr. 特別バージョン

荒川ふるさと文化館クイズ

第1問 大昔のあらかわ<原始>

右の立派な壺が土の中から出ました。何に使っていた壺でしょう?



- ①花を入れて飾った
- ②まつりなどの儀式をした
- ③煮炊きをした

第2問 武士の時代のあらかわ<古代・中世>

鎌倉時代のお坊さん・一遍上人はどうやって隅田川を渡ったでしょう?

- ①泳いで渡った
- ②船で渡った
- ③橋を渡った

第3問 江戸時代のあらかわ<近世>

千住大橋は400年以上も前にかけられた橋です。誰の命令で造ったでしょう?

- ①太田道灌
- ②徳川家康
- ③伊達政宗

第4問 あらかわの暮らしと空間(復元家屋と路地)

この部屋で家族がしていたことは何でしょう?

- ①テレビ鑑賞
- ②食事
- ③お話(団らん)



第5問 奥の細道と千住のコーナー

俳句の達人・松尾芭蕉と一緒に奥の細道の旅に出た弟子の名前は?

- ①杉風
- ②曾良
- ③路通

夏休みは図書館へ行こう!

	ゆいの森あらかわ ☎(3891)4349	南千住図書館 ☎(3807)9221	尾久図書館 ☎(3800)5821	町屋図書館 ☎(3892)9821	日暮里図書館 ☎(3803)1645
イベント名	めんぼうずをつくろう!	くるくるしゃぼん玉をつくろう	尾久の寄席 こども落語	でんでんだいこをつくろう!	えんぴつたてをつくろう!
日時	8月16日(水) 午後1時30分~3時	8月16日(水) 午後3時~4時	8月27日(日) 午前10時~11時	8月9日(水) 午後3時15分~3時45分	8月2日(水) 午後3時30分~4時
会場	2階ワークショップルーム	地下1階視聴覚室	1階みんなのひろば	2階おはなしのへや	地下1階おはなしの部屋
対象	区内在住・在学の 小学4~6年生	区内在住の4歳~小学生 (未就学児は保護者同伴)	小学生	3歳~小学生 (未就学児は保護者同伴)	小学生
人数(申込順)	15人	20人	30人	8人	10人
申込み	7月21日(金)からゆいの森 あらかわホームページ、 または1階総合カウンター	7月21日(金)から 電話または2階カウンター	7月21日(金)から電話 または1階カウンター	8月2日(水)から 電話または2階カウンター	当日午後3時15分から 地下カウンター

なつやすみとしょかん スタンプラリー2023

期間 7月21日(金)~8月31日(木)
※景品の引き換えは9月10日(日)まで

対象 小学生以下の方

内容/スタンプカードに書いてあるクイズや質問への回答、本の貸し出しやイベントへの参加でスタンプを集める。15個中5個で達成!

景品がもらえます(2回まで参加可能)
※なくなり次第終了

スタンプカードの配布/
ゆいの森あらかわ・
各図書館カウンター・
図書サービスステーション



夏休み子ども博物館

申込み・問合せ 荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234

7月21日(金)午前9時から受付開始

費用の記載のない事業は無料です。
会場の記載のない事業は、荒川ふるさと文化館地下1階視聴覚室が会場です。

親子で楽しむ展示解説

- 日時/①7月29日(土)②8月26日(土)午後2時~3時
- 対象/区内在住・在学の小・中学生とその保護者(申込み不要)
- 会場/荒川ふるさと文化館1階常設展示室

リトル学芸員

- 1日学芸員になり、博物館の仕事を体験!
- 日時/8月3日(木)①午前10時~11時30分②午後1時30分~3時
- 対象/区内在住・在学の小・中学生
- 人数/各回8人(申込順)

ミニミニ史跡巡り~南千住の伝説・昔話を探そう!~

- 日時/8月6日(日)午前10時~11時30分(雨天時は文化館の展示解説)
- 対象/区内在住・在学の小学生と保護者
- 人数/5組(申込順)
- 集合場所/荒川ふるさと文化館1階エントランス

俳句を作ろう

- 夏の季語を探し、俳句と俳画にチャレンジ!
- 日時/8月9日(水)午前9時30分~正午
- 対象/区内在住・在学の小・中学生
- 人数/15人(申込順)

あらかわ職人道場

職人さんに弟子入りし、伝統工芸の技を体験。

①指物の技でマイ箸を作ろう!

- 日時/8月19日(土)①午前9時30分~10時30分②午前10時45分~11時45分
- 対象/区内在住・在学の小・中学生
- 人数/各回4人(申込順)
- 費用/500円(材料費)

②木版画摺の技でポストカードを作ろう!

- 日時/8月20日(日)①午前9時30分~10時30分②午前10時50分~11時50分
- 対象/区内在住・在学の小・中学生
- 人数/各回6人(申込順)
- 費用/300円(材料費)

Topics

スクエアード・ストレート方式による交通安全教室が開催されました

5月16日、第四中学校で、スクエアード・ストレート方式による交通安全教室が荒川区と荒川警察署の共催で開催されました。

スクエアード・ストレート方式の交通安全教室とは、怖い思いやヒヤッとする体験から交通ルールの大切さを学ぶ教室です。

この教室では、自転車と自動車の衝突、自転車と人がぶつかる様子など、痛ましい事故の様子がスタントマンによってリアルに再現され、生徒の皆さんは最後まで注意深く見ていました。

生徒の皆さんからは、「ちょっとした不注意で大事故になるんだね」、「ヘルメットって、大事だね」などの感想があり、交通事故の恐ろしさと交通ルールの大切さを実感していました。



▲事故の様子を真剣に見学する生徒たち

あらかわ 今昔ものがたり 日 [あらかわの歴史と伝説]

その145

関東大震災100年・大震災の記憶を伝える東尾久の地蔵堂

区内を歩いていると、町の歴史や文化を伝えてくれる小祠や小さなお堂に出会うことがある。

お地蔵さんと尾久 大正時代までほとんど農村だった尾久には、特にお地蔵さんがたくさんお祀りされているんだ。あらかわ遊園の近く、尾久警察署近く、北豊島学園近くの東尾久六丁目などに子育て地蔵があるよ。子育て地蔵は、子どもを守り育ててくださると信じられ、昔から信仰されてきた仏さんだ。尾久の人々はお地蔵さんをとても大事にしてきたんだね。

大門子育て地蔵 たくさんの地蔵の中で、今回は大門子育て地蔵を紹介しよう。都電の電停・東尾久三丁目から北に向かうと大門通りという古くからある道があり、その道沿いに地蔵堂が建っている。昔、このあたりは下尾久村大門と呼ばれていたから大門子育て地蔵と名付けられた。この地名は大門小学校の由来でもあるよね。

大震災一周年記念碑 お堂の前に「大震災一週(週の誤り)年記念碑」と書かれた大きな石碑が建っているんだ。「大震災」って、いつの地震か

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



な? 左脇に「大正拾参年九月春日建之」と刻まれている。東京のほとんどの建物が倒壊し火災で焼失したあの関東大震災の翌年だね。これはね、今から100年前、大正12年(1923)9月1日の関東大震災で亡くなった方を供養するために地蔵講(地蔵を信仰するグループ)を結成して建てた記念碑なんだってさ。

大震災の記憶 当時の尾久の被害は他の地域と比べるとずいぶん少なかった。この頃の尾久はまだ農村で、家が密集していなかったため被害が軽かったんだ。尾久の大きな農家には配給所が設けられ、被災者の救助にあたったんだって。また、これをきっかけに防災意識が高まったともいうよ。今、私たちは12年前の東日本大震災を経験して、学校や町会でも避難訓練など防災のための準備をしっかりと行っているね。

この心構えは、実は100年前の関東大震災から連綿と続いてきたものなんだ。東尾久三丁目の満光寺の子育て地蔵も、大震災の犠牲者の供養のために建てられたんだ。今度、地域の震災の記憶を探してみよう。

▶大門子育て地蔵と大震災一周年の記念碑

